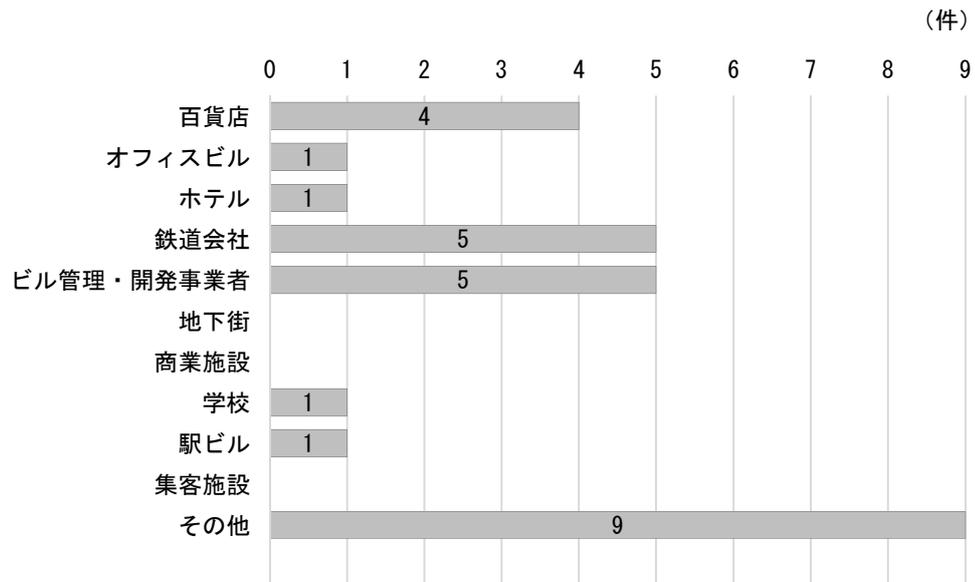


# アンケート結果

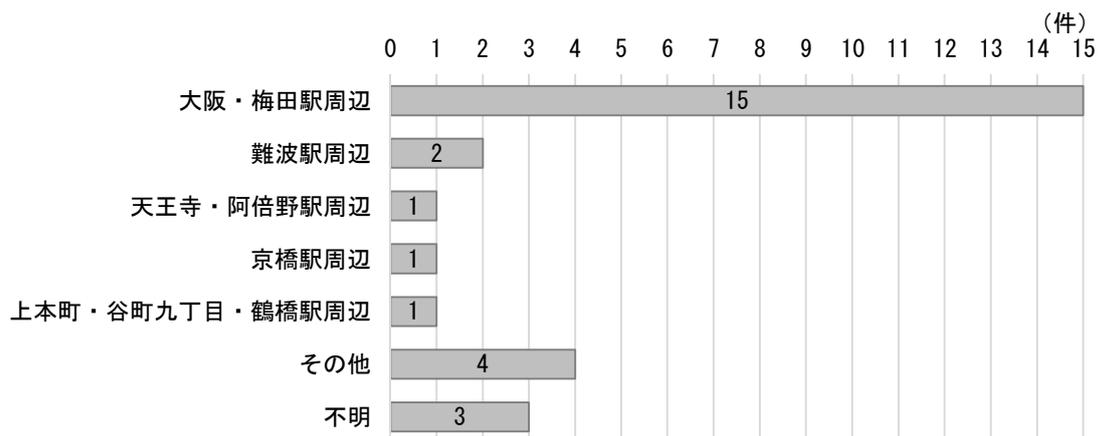
## (1) アンケート回答者の概要

### ■業種



N=27 (複数回答)

### ■地域



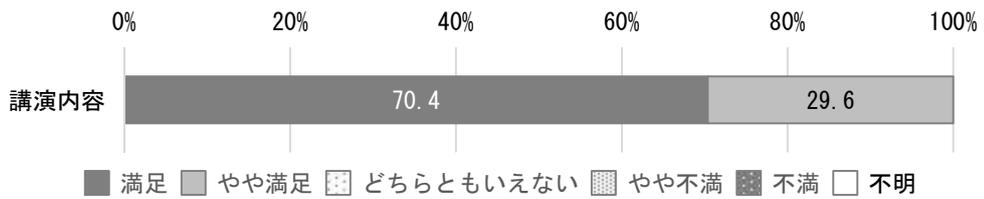
N=27 (複数回答)

## (2) 講演内容・講演時間についての評価

### ■ 講演内容・講演時間

#### 講演内容に概ね満足傾向

帰宅困難者対策について（東京大学先端科学技術研究センター 廣井教授）

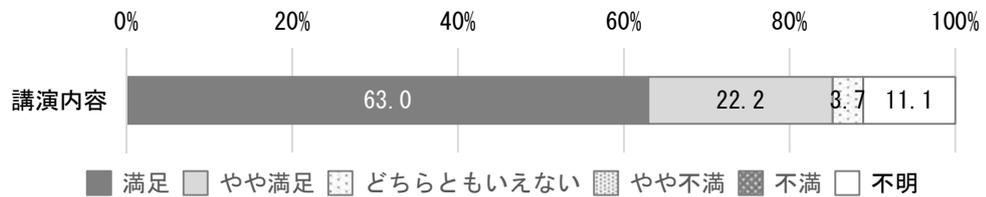


N=27

一般企業における一斉帰宅抑制推進の事例紹介

（サントリーマーケティング&コマース株式会社 管理本部

人事総務グループ 須藤課長代理）

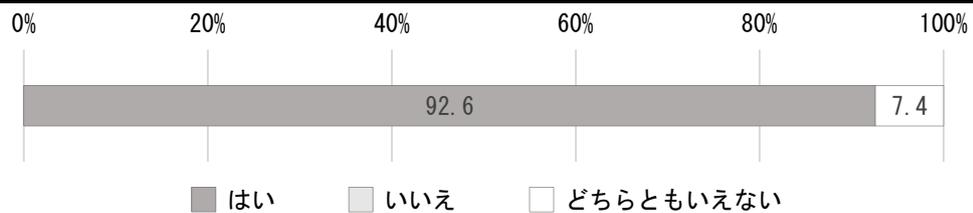


N=27

### (3) 期待していた情報は得られたか

9割以上が、期待していた情報が得られたと回答

- ・「はい」においては、帰宅困難者対策の重要性、具体的な取組み内容がわかったとの意見が多い。
- ・「どちらともいえない」においては、もう少し細かい情報が聞きたかったとの意見があった。



N=27

#### <「はい」との回答者> どのような情報が

- 企業における帰宅抑制の事例。
- 事前の環境整備が重要である点。
- 帰宅抑制の重要性、大阪市の公共交通への依存と認識。
- 一斉帰宅抑制対策の基本認識、対策の実際。
- サントリーマーケティング&コマース株式会社の具体的な取組事例。
- 帰宅困難者対策を単なる対策として終わらせるのではなく「活用し問題からの脱却を目指す」という方向性。
- 課題、対策についての詳しい説明。
- 他の企業の事例（社員への啓蒙の進め方や具体的な訓練内容など）
- 発災時首都圏交通網（想定）の状況。
- 広く市民の方が、一斉帰宅抑制の重要性と理解を深めることができる内容。秩序ある行動がその後の対応（緊急車両の使命達成、インフラの早期復旧等）に深く影響を及ぼすものであること。
- 災害時の交通状況や心理状況。
- 各社が取り組んでいる施策や訓練の情報。
- 従業員に家族との情報連携、避難場所について話し合う必要があること。
- 帰宅困難者の抑制目的・発生背景と対策。
- 帰宅困難者対策について、実際の交通事情予測で対策の理解が進んだ。企業内での訓練等の具体的事例。

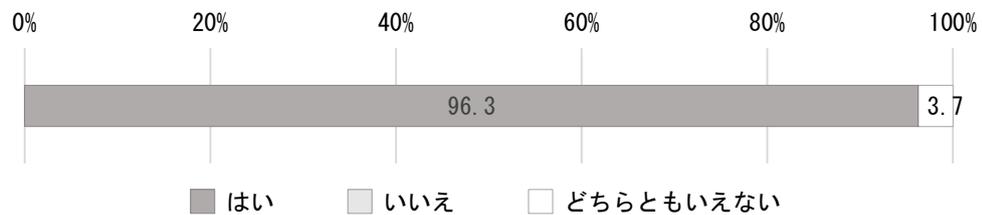
#### <「どちらともいえない」との回答者> その理由

- 帰宅困難の概要説明が多く、もう少し細かい情報が聞きたかった。

#### (4) 自社での帰宅困難者対策に役立つと思えたか

8割以上が、自社での帰宅困難者対策に役立つと思えたと回答

- ・「はい」においては、事例を参考に、宿泊訓練など具体的な取り組み、帰宅困難者対策の必要性の周知などの意見があった。
- ・「どちらともいえない」においては、企業担当者としては参考になったとの意見があった。



N=27

#### <「はい」との回答者> どのように役立ちそうか

- 事例を参考にやってみたい。
- 防災の属人化からの脱却の重要性。
- 他社の取組事例を参考にしたい。会社の宿泊訓練（サントリーマーケティング&コマース株式会社）は実験として有益。
- 事業者の役割、具体的な企業の取組内容。
- サントリーマーケティング&コマース株式会社の属人化からの脱却、社員目線にたったマニュアル見直し、Teams の活用など。
- サントリーマーケティング&コマース株式会社の実際の取組。
- テナントへの説明の方法など。
- 課題や、解決策のヒントをつかむことができた。
- 宿泊訓練等実際の取り組み内容は、当社においてもフィードバックできる。
- 被災者を集めたリアル訓練の実施はハードルが高いが、（主要駅の管理者による）帰宅困難者対策用の図上訓練への参加により、いざという時をシミュレーションし、備える機運醸成に努めたい。
- 災害時の交通状況などを周知し、理解してもらえるようにしていきたい。
- 当社でどんなことができるか、やらねばならないか、整理する機会を得た。
- 企業側の対策だけでなく、就業者の家族にも理解してもらうことの重要性が認識できた。（家族の安否確認や「迎えに行かない・送らない」など）
- 備蓄品について、不足している内容が参考となった。
- BCP へつなげる人的資源の活用。安否確認の重要性（多重化も）。
- 今後の備蓄や対策検討に際し帰宅抑制の考え方等参考になった。
- 交通事情のシミュレーションにより、具体的な課題、問題がイメージできた。
- 有事において判断を求める上層部との連絡手段の確保。建物に滞在中の多数の学生・生徒をとどまらせるための物品確保。

- 民間企業と行政では対策が異なるが、事前対策の重要性を改めて感じた。
- 民間企業の状況把握。
- KUGの導入など、我が事としての認識を高める手段を知ることが出来た。
- サントリーマーケティング&コマース株式会社の会社で残らざる得ない場合の取り組み（非常食等について）。

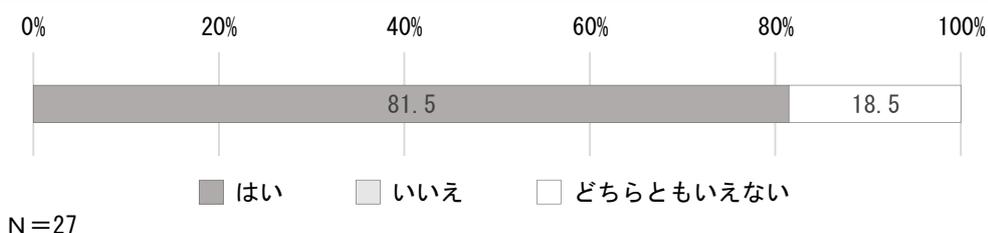
<「どちらともいえない」との回答者> その理由

- 企業担当者としては参考になった。

## (5) 自社での帰宅困難者対策への取組みが変化すると思えたか

約8割が、自社での帰宅困難者対策への取組みが変化すると思えたと回答。

- ・「はい」においては、全従業員で取り組む訓練、図上訓練の実施などの意見があった。
- ・「どちらともいえない」においては、自社の施設に帰宅困難者を受け入れるリスクが大きい、現状の対策を基本に継続などの意見があった。



### <「はい」とした回答者> どのように変化しそうか

- 意識の改革ができそう。
- 個人としての防災知識を増やし、還元していきたい。
- 良い方向に向けて取り組んでいきたい。
- 社員の命を守る活動との視点も持ち、改めて対策など検討したい。図上訓練を取り入れてみたい。
- サントリーマーケティング&コマース株式会社の取組を当社に活かしていきたい。
- 机上のマニュアルにとどまっていたので、サントリーマーケティング&コマース株式会社のように全社員を巻き込んだ具体的な訓練を定期的実施していきたい。
- 新規ビルなどでテナント等に説明して理解していただき、対策を進めていきたい。
- 少しでも変化、改善していきたい。
- 取組みの重要性、社内意識向上のため、変化させなければならぬと考えている。
- 災害発生状況（時刻、天候、場所、規模等）による対応の変化をシミュレーションする機会を得た。
- 従業員への周知。
- 当社でもできることを早急に実現したい。
- 就業者に自分事として防災に取り組んでもらう姿勢が必要と感じた。
- 視聴した内容を参考に、備蓄品の追加変更を検討していきたい。
- 事前準備品・訓練など、従業員目線で共感をえられるような視点。
- 災害対策マニュアルへの盛り込みの検討など。
- 災害の規模によっては、帰宅困難者対策も考えなければならぬと感じた。
- 他社での取組の中で取り入れられそうなものを考えるいい機会になった。
- KUG活用などにより、施設全体としての意識向上に繋がる。
- 関係自治体や協議会等との連携を日頃から密にするように、今後も取り組んでいきたい。

<「いいえ」「どちらともいえない」とした回答者> その理由

- 自社の施設に帰宅困難者を受け入れるリスクが大きい。
- 今後検討していく。
- 現状の対策を基本に継続。

(6) 今後、セミナーにおいて講演してほしい内容や、その他のご意見

今後、具体的な事例紹介、大阪市に関する取り組み状況などの意見がある。

ご意見

- エリア団体、協議会で地域エリアとしての取組の意義や推進など。大阪市における対策の進捗状況、できていない、進みが遅いのであればその理由。
- 他社の取組事例を中心に聞けるセミナーを実施してほしい。以前から廣井教授の話を聞きたいと思っており、基本的な考え方がよく理解できた。シミュレーションはNHKでも紹介されていたと記憶しており、今後も講演をお願いしたい。
- 大阪の地震の被害想定なども関連づけた対策等の知識。
- 会員企業における帰宅抑制策の実施割合を市で把握し、公表するなど、啓発成果を着実に向上させる取組を実施してほしい。
- 大変勉強になったセミナーなので、講演内容を提供いただきたい。
- 講演の資料データがほしい。
- 事例などをご紹介いただいたので、質疑応答の時間をしっかりとってほしい。
- 災害用緊急無線の取扱い等の参考事例等。
- わかりやすい講演で理解が深まった。
- 在宅避難のすすめについて、いかに住民に理解してもらえるか、ご教授いただきたい。
- 発災後に無用な混乱等を避けるため、各会社で留まる取り組みの強化をお願いしたい。

## (7) 講演への質問と回答

### 講演「一般企業における一斉帰宅抑制推進の事例紹介

(サントリーマーケティング&コマース株式会社)」について

質問	回答
セコムの安否確認システムの情報を自社の Teams に掲載しているのは手入力か。何か別のソフトを使用しているのか	セコムの安否確認システムの個別の安否情報は、一括で CSV ダウンロードが可能。そのデータを Teams にアップロードをしている。一連の作業は手作業となる。ソフトなどは使用していない。